

授業実践 【小学校第4学年 国語科】

「説明の工夫」や「個人差への配慮」の支援の充実に向けた授業改善の取組

1 1学期の授業の実際〔单元「4の2の友達のことをインタビューして新聞記事に書いて、学級のみんなに紹介しよう」(『みんなで新聞を作ろう』東京書籍4年上)〕

(1) これまでの授業づくりにおける支援の傾向と児童の実態

これまでの授業づくりの傾向をチェックシートの結果から見ると、「組立ての工夫」のポイントが高く、それに比べると「環境の工夫」「説明の工夫」「個人差への配慮」のポイントが低い(図1)。

該当学級の児童は、授業中は活発に意見を述べるが多い。その反面、教師の説明や友達の意見を最後まで聞くことが少なく、学習内容の理解を深めることが難しい児童が見られる。

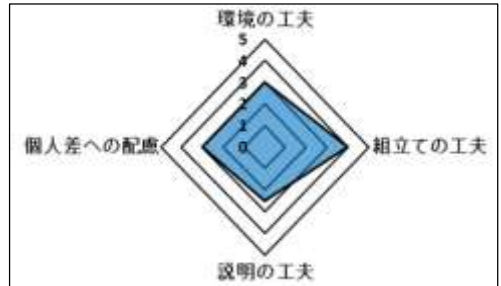


図1 これまでの授業づくりにおける支援の傾向

そこで、本单元では、これまでの授業づくりにおける支援の傾向及び児童の実態を踏まえて、以下のような主な支援を取り入れた。

【環境の工夫】

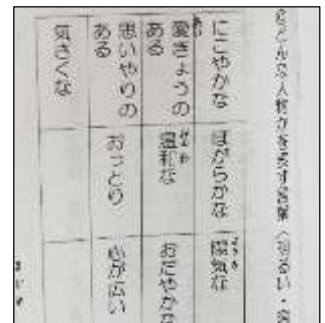
- ・学習を進めやすくするために、これまでの学習で用いた語彙をまとめた「言葉の資料」を各自にもたせたり、話合いの進行の仕方が書かれた「話合いの手引き」を準備したりする。

【説明の工夫】

- ・話合いや記事の記述の仕方の参考となるように、前時に児童が記述したワークシートを電子黒板に提示する。

【個人差への配慮】

- ・友達からの助言を基に新聞記事を書くことができるように、習熟度に合わせたグループ編成を行う。



資料1 「言葉の資料」の内容

(2) 1学期の授業の概要(6月実施)

ア 本時の目標

○読み手が興味を引くような工夫をしながら、友達のことを紹介する文章を練ることができる。

イ 本時の展開(環 環境の工夫 組 組立ての工夫 説 説明の工夫 ◎ 個人差への配慮)

学 習 活 動	「ユニバーサルデザイン」の視点による支援
[授業前]	環 話合いの状況に応じた発言をすることができるように、発表のときの話型を掲示しておく。 環 伝えたい内容に合う言葉を探しやすくするために、「言葉の資料」を各自にもたせておく。 ◎自分の考えを書いたり話したりすることが苦手な児童には、習熟度に合わせたグループ編成を行う。
1 学習課題を確かめ、前時までの学習を振り返る。	説 新聞記事を読みやすくするために必要なものを確認することができるように、教室壁面に掲示した教師自作の新聞記事を指す。 説 読み手の興味を引く文章表現の仕方の参考となるように、前時に児童が作成したワークシートを電子黒板に提示する。
学習課題 4の2の友達のことをインタビューして新聞記事に書いて、学級のみんなや家族に紹介しよう	

<p>2 グループ学習の計画を立てる。</p> <p>3 新聞記事を書く活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取材・メモ活動 (作文マップ) 記事を書く活動 (試し書き) 文章を練る活動 (編集会議) <p>本単元で習得させたい「国語のことば」</p> <p>インタビュー、メモ、見出し</p> <p>話の組立て、質問、リード</p> <p>本文、写真、キャプション</p>	<p>組 グループ学習での見通しをもつことにつながるように、前時に立てた個人のめあてを基に、グループごとに活動する内容と時間配分を話し合わせ、各グループでホワイトボードに記入させる。</p> <p>◎聞くことが苦手な児童のために、取材したことをICレコーダーに録音させる。</p> <p>◎書くことが苦手な児童のために、ワークシートにはマス目を入れておく。</p> <p>◎注意を持続させながら、活動に取り組むことが苦手な児童のために、グループでの話合いの前に役割(司会・報告・計時・記録)を確認させる。</p> <p>環 話合いの進め方が分かるように、「話合いの手引き」を配布する。また、観点を絞って話し合うことができるように、本単元で習得させたい「国語のことば」が貼られたホワイトボードを各グループに準備する。</p> <p>説 修正した箇所を分かりやすくするため、文章を練る活動を経て修正した箇所には赤鉛筆で記入するように伝えておく。</p> <p>説 「国語のことば」の習得につながるように、発言は「国語のことば」ごとに分けて板書する。</p>
<p>4 気付いたことや新しく発見したことを発表する。</p>	<p>説 本時を振り返らせやすくするために、「振り返りのポイント」を提示する。</p>
<p>5 本時を振り返る。</p> <p>6 次の学習の内容を確かめる。</p>	<p>組 次時の活動の見通しをもつことができるように、振り返りを基に次時のめあてを立てさせる。</p>

(3) 児童アンケートや授業者アンケートを基にした1学期の授業評価

「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じた支援を取り入れた授業づくりについて、児童アンケートの振り返りの記述には、多くの児童が好意的な感想を挙げている(資料2)。「環境の工夫」に関する支援として取り入れた「言葉の資料」があったので、児童が学習を進めやすかったことが振り返りの記述から読み取ることができる(資料2:実線部)。一方、話合いの観点として提示した「国語のことば」では、それを用いた話合いに難しさを感じた児童もいたことが分かる。振り返りの記述に「自分たちで話合いをやるのがどうすればいいのかわからなかった」(資料2:波線部)とあり、「国語のことば」を用いた話合いの進め方を児童が把握することができなかつたことが考えられる。

・分からないことが、アドバイスをしてもらって、分かった。

・「言葉の資料」を使って、友達のいいところを言えたからよかった。

・自分達で話合いをやるのがどうすればいいのかわからなかった。

・ホワイトボードやカードがあってそれを使うことで分かりやすかった。

◎今日はあまり集中できなかったから、次は真剣にやりたい(◎は「個人差への配慮」の支援を要する児童の記述)。

資料2 授業の振り返りの記述の例

また、授業者アンケートを見ると、「言葉の資料」が児童に記事を書かせる有効な手立てになっていることを授業者自身が実感していることが分かる(資料3:実線部)。しかし、活動内容を説明するときの工夫や個別に配慮を要する児童の支援については、授業者が改善を必要だと感じており(資料3:波線部)、今後、どのような支援が有効かを検討していく必要がある。

・「言葉の資料」等、子供たちの主体的な学びに有効であった(「環境の工夫」に関する記述)。

・説明する際は、具体物を極力準備し、教師がしゃべりすぎないように気を付ける(「説明の工夫」に関する記述)。

・個別に対応すべき人数が多く、支援も不十分。グループ学習を中心に互いを高めある工夫が必要だと考える(「個人差への配慮」に関する記述)。

資料3 授業者アンケートの主な記述

(4) 次回の授業に向けた支援の検討

今回の授業の成果と課題をまとめた上で、課題を基に次回の授業に取り入れたい支援を検討した(次頁参照)。授業者が改善する必要があると感じていた「説明の工夫」と「個人差への配慮」の2つの視点に応じた支援を重点的に取り入れることを確認して、次回の授業の準備に取り組んだ。

授業後の成果と課題及び新たに取り入れたい支援

視点	取り入れた支援	成果(○)と課題(●)	新たに取り入れたい支援
環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作文を書きやすくするために、「言葉の資料」や「作文マップ」を準備する。 ・ 話合いの進行の仕方が書かれた「話合いの手引き」を準備する。 ・ 授業で取り組むことが伝わるように、ホワイトボードに活動内容を書く。 ・ 話合いの観点となるように、「国語のことば」を準備する。 ・ 話をする人に体から向くルールを決めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホワイトボードを見比べながら次の学習活動を確認していた。 ○ 「言葉の資料」を用いながら文に合う言葉を探していた。 ○ 話合いを進めるポイントとして、「国語のことば」が書かれた掲示物を基に考えていた。 ○ 友達の意見を静かに聞く学習規律ができていた。 ● 机上よりホワイトボードが落ちることが度々あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書に学習活動の流れを掲示する。
組立ての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注意を持続して授業に取り組むことができるように、書いたり話したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのようにすれば伝わりやすい記事になるかを時間いっぱい話し合うことができた。 ● 個人で立てためあてを、授業終了まで意識して取り組むことが難しい児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標(学習課題)を絞り、明確にする。 ・ 本時の中心となる学習活動を明確にする。
説明の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が前時に記述したワークシートを電子黒板に提示する。 ・ 電子黒板にワークシートの書き方の例を提示する。 ・ 「話合いの手引き」を基に話合いの進め方を確認する。 ・ 「国語のことば」や写真、図を基に授業を振り返らせる。 ・ 学習の流れが分かるように板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電子黒板にワークシートや書き方の例を提示して説明したので、注目するポイントが分かりやすかった。 ○ 「話合いの手引き」には係ごとに話すことを分けて書いたもので、分担しながら読むことができた。 ○ 学習の流れに沿った板書であったため、本時の学習を振り返らせやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明や指示をする内容を精選する。 ・ 説明や指示をするときは、できるだけ具体的な言葉を使う。 ・ 「1つ目、2つ目」のように活動の順序を提示しながら説明や指示をする。
個人差への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをもつことが難しい児童には、習熟度など児童の実態に応じた座席編成をする。 ・ 注意を持続させることが難しい児童には、話合いの観察の役を任せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ班の友達の意見を参考にしながら、ワークシートに自分の考えを記入していた。 ○ 自分の役割があることで、観察の仕事に意欲的に取り組んだ。 ● ワークシートに何を書けばよいか分からずに、活動が停滞していた児童がいた。 ● 注意が持続できずに、教師の説明や友達の発表の際にうつむく児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体に説明や指示をした内容について個別に確認し、重点的に机間指導する。 ・ あらかじめ罫線やマス目が入ったワークシートを選択できるようにし、書かせる負担を軽減する。 ・ 自分の考えを書く順番が分かるようなヒントカードを準備する。 ・ 下書きを縮小コピーして貼らせるなど、文字を小さく書く負担を減らす。 ・ 説明や指示の際、指し棒を使い、着目させやすくする。 ・ 説明や指示の際、呼名したり言葉掛けをしたりして注意を引き付ける。 ・ 活動の終わりが分かることで注意を持続できるように、個人で取り組む活動をあらかじめ付箋に書かせておき、活動が終わるたびに付箋をはがさせる。 ・ 望ましい行動をとった場合は、その都度称賛する。

2 2学期の授業の実際〔単元「動物が出てくる物語の『心に響く名文』」発表会をして、文集にまとめよう〕（『ごんぎつね』東京書籍4年下『わたしの考えたこと』東京書籍4年上）

(1) 2学期の授業づくりにおける支援の傾向と児童の実態

実践授業までの授業づくりの傾向をチェックシートの結果から見ると、「環境の工夫」「組立ての工夫」のポイントが高く、それらに比べると「説明の工夫」「個人差への配慮」のポイントが低い（図2）。

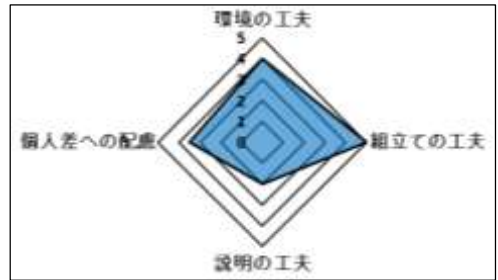


図2 実践授業までの授業づくりにおける支援の傾向

該当学級の児童は、読書好きが多く、時間があれば本を読んでいる姿が見られる。一方で、自分の考えを書くことや友達に伝えることに苦手意識をもっていたり、学習課題に対して注意を持続させることが難しかったりするなどの、様々な課題がある児童がいる。

そこで、本単元では、前回の授業の成果と課題を基に考えた支援やこれまでの授業づくりにおける支援の傾向、さらに、児童の実態を踏まえて、以下のような主な支援を取り入れた。

【環境の工夫】

- ・板書に学習活動の流れを掲示する。

【説明の工夫】

- ・説明や指示をするときは、できるだけ具体的な言葉を使う。
- ・「話合いの手引き」を基に、話合いの進め方を確認する。

【個人差への配慮】

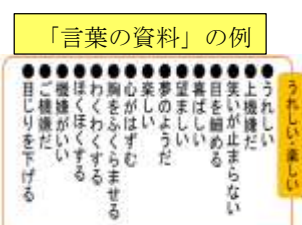
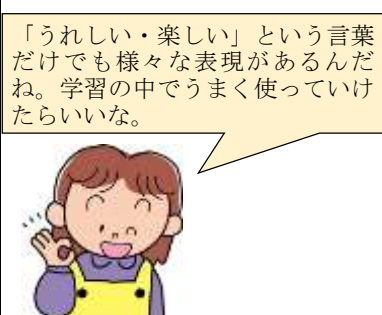
- ・自分の考えをもつことが難しい児童が友達と話し合いながら学習することができるように、意図的なグループ編成にする。
- ・活動が停滞しがちな児童のために、学習の流れと内容について個別に確認する。
- ・書くことが苦手な児童のために、マス目が入ったワークシートを用意して書かせる負担を軽減する。

(2) 2学期の授業の概要(10月実施)



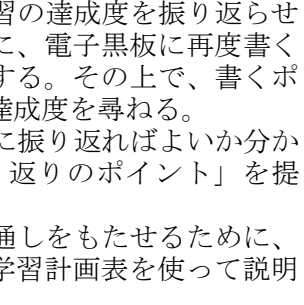

ア 本時の目標

○グループで名文(心に残った一文)の前後の登場人物の気持ちを比べることを通して、登場人物の気持ちの変化を捉えることができる。

イ 本時の展開 **環** 環境の工夫 **組** 組立ての工夫 **説** 説明の工夫 ◎ 個人差への配慮

学習活動	「ユニバーサルデザイン」の視点による支援	取組の様子
〔授業前〕 	環 単元の見通しをもつことができるように、単元計画表を室内に掲示する。 環 伝えたい内容に合う言葉を探しやすくするために、「言葉の資料」を各自にもたせたり、拡大したものを掲示したりする。 ◎自分の考えを表現することが難しい児童のために、実態に合わせたグループ編成を行う。	
1 本時の学習課題を確認する。	説 前時までの学習を振り返らせやすくするために、学習計画表やワークシートを貼ったファイルを開かせる。	

	<p>◎書くことが苦手な児童のために、学習の流れに沿ったワークシートを準備する。また、本時の学習課題に注目させやすくするために、板書のときは本時のめあてを四角で囲む。</p> 	<p>ワークシートを授業の流れに沿って作成していたので、書く場所等の指示をすることなく本時の学習課題を書くことができました。</p> 														
<p>学習課題 名文の前後の登場人物の「気持ちの変化」を考えよう</p>																
<p>2 「心に響く名文」を書く活動をする。 ・個人で考える</p> <p>気持ちの変化のポイント</p> <table border="1" data-bbox="175 683 486 817"> <tr> <td>情</td> <td>心</td> <td>行</td> <td>会</td> </tr> <tr> <td>景</td> <td>内</td> <td>動</td> <td>話</td> </tr> <tr> <td></td> <td>語</td> <td></td> <td>文</td> </tr> </table> <p>書くポイント</p> <table border="1" data-bbox="175 896 486 1064"> <tr> <td>名文の前後の気持ちを書けた</td> </tr> <tr> <td>気持ちの理由も書けた</td> </tr> </table> <p>・グループで話し合う</p>  	情	心	行	会	景	内	動	話		語		文	名文の前後の気持ちを書けた	気持ちの理由も書けた	<p>【組】活動への注意の持続につながるように、個人で考える活動やグループで話し合う活動を設定する。</p> <p>◎登場人物の気持ちが書かれている箇所を本文から読み取ることが苦手な児童のために、「気持ちの変化のポイント」を掲示する。</p> <p>【説】登場人物の気持ちに合う言葉を選びやすくするために、「言葉の資料」の使い方をファイルを使って説明する。</p> <p>【説】ワークシートにどのようなことを書けばよいかを把握させるために、電子黒板に書くポイントを提示する。また、ワークシートに登場人物の気持ちの書き方が分かるように、モデル文を提示する。</p> <p>【組】書く活動から話し合う活動へ移行できるように、電子黒板にタイマーを提示する。</p>  <p>【説】児童で話し合いの進行をすることができるように、「話し合いの手引き」を基に話し合うことを説明する。また、自発的に話し合い活動に参加することにつながるように、掲示や記録などの役割分担をし、ホワイトボードで役割を知らせる。</p> <p>【組】注意を持続させて学習に取り組むことにつながるように、グループでの話し合いを早く終えた場合の過ごし方を事前に伝えておく。</p> <p>【説】名文の前後での登場人物の気持ちの変化を書き表しやすくするために、選んだ名文ごとにラミネート加工したプリントを配り、グループで考えた登場人物の気持ちを記入させる。</p>  	<p>分かったぞ。「気持ちの変化のポイント」に気を付けて読めば、ごんや兵十の気持ちを探することができるんだな。今日は、理由まで書けるように頑張るぞ。</p>  <p>このタイマーは、数字だけでなく動物がゴールするまでの距離で残り時間を把握することができるため、児童は時間を意識しながら活動することができました。</p>  <p>今日の私の役割は記録ね。友達からどんな考えが出てくるのか、楽しみだわ。</p> <p>ラミネート加工したプリントの中央に児童の心に残った一文を配置し、その一文を挟む形で前後の気持ちを記入させました。そのため、登場人物の気持ちの変化を捉えやすかったようです。</p> 
情	心	行	会													
景	内	動	話													
	語		文													
名文の前後の気持ちを書けた																
気持ちの理由も書けた																

<p>3 グループで考えた「気持ちの変化」について報告する。</p>	<p>組発表しているグループのものがどれか分かるように、ラミネート加工したプリントを指し棒で指させる。</p> <p>◎注意を持続させることが難しい児童には、呼名したり感想を聞いたりする。</p>		<p>僕たちが考えた登場人物の気持ちを伝えるぞ。グループで話し合ったから、自信をもって発表できるな。</p> 
<p>4 本時を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>振り返りのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習をして分かったこと ・これから、頑張りたいこと </div> <p>5 次時の学習内容を確かめる。</p>	<p>説児童に本時の学習の達成度を振り返らせやすくするために、電子黒板に再度書くポイントを提示する。その上で、書くポイントに対する達成度を尋ねる。</p> <p>説児童がどのように振り返ればよいか分かるように、「振り返りのポイント」を提示する。</p> <p>説次時の学習の見通しをもたせるために、教室に掲示した学習計画表を使って説明する。</p>		<p>「最後まで集中して学習することができた」という児童の声を多く聞くことができました。</p> 

(3) 児童アンケートや授業者アンケートを基にした2学期の授業評価

「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じた支援を取り入れた授業づくりについて、児童アンケートの振り返りの記述から、多くの児童が肯定的な感想を挙げている（資料4）。今回の授業では、「説明や指示をする際は、できるだけ具体的な言葉を使う」ことを主な支援として取り入れた。授業者が、指示語ではなく具体物の名前を出して説明したことで、児童にとって活動内容の把握が明確になり、学習を進めやすくなったことを読み取ることができる（資料4：実線部）。また、個人で書く活動を行う前にモデル文を使った説明があったことで、多くの児童が登場人物の気持ちの変化を書くことができ、結果として、その後のグループでの話し合いが活発に行われたことも分かる（資料4：二重線部）。しかし、「名文が難しかった」（資料4：波線部）という記述があるように、学習内容に難しさを感じた児童もいることが考えられる。そのため、児童の実態に応じた単元設定を行う必要性が感じられた。

- ・名文の前後の気持ちが書けるボードがあったし、グループで協力して取り組めた。
- ◎先生がアドバイスをくれたり詳しく説明したりするから分かりやすかった。
- ・書くことは難しかったけど、説明は分かりやすかった。
- ・グループでの話し合いでは、友達の考えの理由を聞いたので、納得することができた。
- ・みんながいつもより真剣に聞いてくれたからうれしかった。
- ◎一生懸命にできて話し合いもちゃんとできた。
- ・名文が難しかった。
- ◎授業がとても分かりやすかったのでよかった。
- ◎あまり意見がまとまらなかった(◎は「個人差への配慮」の支援を要する児童の記述)。

資料4 授業の振り返りの記述の例

一方、授業者アンケートを見ると、説明を詳しく述べることを意識して授業に取り組んだことがうかがえる（資料5：実線部）。しかし、個別に配慮を要する児童の支援については、支援の改善を行ってはいないものの、授業者が更なる支援の改善の必要性を感じている（資料5：波線部）。

- ・名文の前後の気持ちを書くワークシートが小さく、反射して見づらい。また、板書の情報量が多過ぎた(「環境の工夫」に関する記述)。
- ・説明する際は、できるだけ詳しく話すように気を付けた(「説明の工夫」に関する記述)。
- ・個別に対応すべき児童にはできるだけ机間巡視をするようにしているが、支援は十分ではない(「個人差への配慮」に関する記述)。

資料5 授業者アンケートの主な記述

(4) 次回の授業に向けた支援の検討

今回の授業の成果と課題をまとめた上で、課題を基に次回の授業に取り入れたい支援を検討した(次頁参照)。授業者が改善する必要があると感じていた「個人差への配慮」の視点を取り入れた支援の充実に向け、次回の授業の準備につなげた。

授業後の成果と課題及び新たに取り入れたい支援

視点	取り入れた支援	成果(○)と課題(●)
環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 板書に学習の流れを掲示する。 単元の見通しをもつことができるように、単元計画表を室内に掲示する。 伝えたい内容に合う言葉を探しやすくするために、「言葉の資料」を各自にもたせたり、拡大したものを掲示したりする。 書く活動から話し合う活動へスムーズに移行することができるように、電子黒板にタイマーを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○黒板と電子黒板を何度も見比べながら自分の考えをワークシートに書くことができていた。 ○「言葉の資料」を用いながら文に合う言葉を探していた。 ●ラミネート加工したプリントは反射しやすいため、席によっては見づらくなる場合もあった。 ●黒板に教材文を掲示していたが、本時で用いることはなく、黒板の情報量を精選する必要がある。
組立ての工夫	<ul style="list-style-type: none"> 活動への注意の持続につながるように、個人で考える活動やグループで話し合う活動を設定する。 グループでの話し合いを早く終了した場合の過ごし方を事前に伝えておく。 発表しているグループのものがどれか分かるように、ラミネート加工したプリントを指し棒で指させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自分の考えをもってグループでの話し合いに臨むことができた。 ○指し棒で指されていたので、他のグループの考えを視覚的にも知ることにつながった。
説明の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 説明や指示をするときは、具体的な言葉を使う。 児童自らで話し合いの進行をすることができるように、「話し合いの手引き」を基に話し合うことを説明する。また、自発的に話し合いに参加することにつながるように、掲示や記録などの役割分担をし、ホワイトボードで役割を知らせる。 前時までの学習を振り返りやすくするために、学習計画表やワークシートを貼ったファイルを開かせる。 登場人物の気持ちに合う言葉を選ぶように、「言葉の資料」の使い方をファイルを使って説明する。 ワークシートにどのようなことを書けばよいかを把握させるために、電子黒板に書くポイントを提示する。 児童に本時の学習の達成度を振り返らせやすくするために、電子黒板に再度書くポイントを提示する。その上で、書くポイントに対する達成度を尋ねる。 児童がどのように振り返ればよいか分かるように、「振り返りのポイント」を提示する。 次時の学習の見通しをもたせやすくするために、教室に掲示した学習計画表を使って説明する。 名文の前後での登場人物の気持ちの変化を書き表しやすくするために、選んだ名文ごとにラミネート加工したプリントを配り、グループで考えた登場人物の気持ちを記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「言葉の資料」の使い方をファイルや掲示物を使って説明したため、実際に個人で書く活動のときに、ほとんどの児童が自分の考えを記入することができていた。 ○電子黒板に提示されていたので、個人で書く活動だけでなく、その後のグループでの話し合いでも書くポイントに沿って学習を進めることができた。 ○グループでの話し合いでは、児童が自分の役割に沿って活動することができた。 ○ラミネート加工したプリントを基に、グループの意見をまとめる姿が多く見られた。 ●「話し合いの手引き」には、進行の仕方を掲載していたため、グループの意見をまとめることに難しさを感じる児童がいた。 ●書くポイントと「振り返りのポイント」との関連が分かりづらさを感じる児童がいた。
個人差への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現することが難しい児童のために、意図的なグループ編成を行う。 注意を持続させることが難しい児童には、呼名したり感想を聞いたりする。また、学習の流れと内容について個別に確認する。 書くことが苦手な児童のために、学習の流れに沿ったワークシートを準備する。また、学習課題に注目させやすくするために、板書のときははめあてを四角で囲む。 本文から登場人物の気持ちが書かれている箇所を読むことが苦手な児童のために、「気持ちの変化のポイント」を掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループでの話し合いで友達のことを聞くことができたので、登場人物の気持ちに沿いながら学習することにつながった。 ○学習の流れに沿ったワークシートが準備されていたので、児童にとって活動することが明確になり、ワークシートに自分から考えを書くことにつながった。 ●「気持ちの変化のポイント」が掲示されたが、本文中の言葉が「情景」「心内語」「行動」「会話文」のどれに当てはまるのか戸惑う児童が見られた。 ●選んだ名文が各グループで違っていたため、全体での話し合いのときは注意が持続できずにうつむく児童もいた。



新たに取り入れたい支援
<ul style="list-style-type: none"> ラミネート加工したプリントを基に発表させる際は、カーテンを閉めるなどして光量を調節したり、書画カメラを用いて電子黒板で提示したりする。
<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標(学習課題)と学習の振り返りとの関連を明確にする。 全体で話し合いでは、話し合う論点を絞る。 児童の実態に応じた単元設定を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 「話し合いの手引き」の中に意見のまとめ方に関する文言を加える。 今後、書くポイントを挙げるときは、「振り返りのポイント」との関連を図る。 本時の目標に沿った板書計画を立てる。
<ul style="list-style-type: none"> 今後、「気持ちの変化のポイント」を別単元で扱う場合は、本文中の言葉を分類したものをプリントとして準備したり、教室内に掲示したりする。 下書きを縮小コピーして貼らせるなど、文字を小さく書く負担を減らす。 自分の考えを文字に書き表すことに時間が掛かる場合には、思い浮かんだ情景等を絵に描き表させた後に文章化させる。 登場人物の気持ちに合った言葉を選びやすくするために、「言葉の資料」は実態に応じて精選する。 望ましい行動をとった場合は、その都度称賛する。

3 本研究の成果と課題

(1) 成果

○チェックシートの継続的な使用及び児童、授業者アンケートを基にした授業改善を図ることで、児童にとって学びやすい授業づくりにつなげることができた。チェックシートの結果から1学期の授業では、「説明の工夫」と「個人差への配慮」の視点に応じた支援を重点的に行った。しかし、児童が活動の進め方を把握することに難しさを感じていた実態が明らかになった。そこで、2学期の授業では、授業者が説明や指示をするときは、学習の流れやモデル文を掲示するなど、視覚的支援を多く取り入れた。その結果、児童アンケートの活動前の視覚的支援の有効性に関する問い（図3）を1、2学期の授業で比較すると、肯定的に答えた児童の割合が増えていることが分かった。チェックシートを継続的に使用することで、授業者が「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じた支援を行っているかを把握するだけでなく、支援の改善を図ることにつながり、児童にとって学びやすい授業につながったと考える。

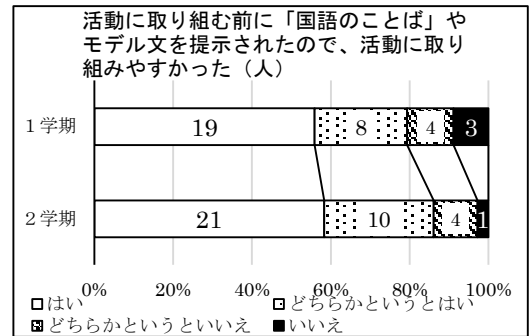


図3 児童アンケートの結果

○「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じた支援をどのように取り入れていくかを考える中で、授業者の

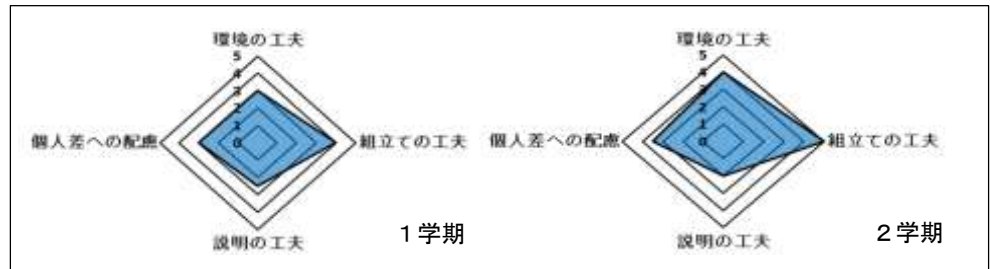


図4 授業者のこれまでの授業づくりにおける傾向の比較

授業づくりにおける意識の変化につながった。1、2学期の授業前のチェックシートの結果を比較すると、3つの視点に応じた支援が増えていることを授業者が自覚していることが分かる（図4）。一方、「説明の工夫」の視点については、2学期の方が低くなっている。これは、1学期の授業後の感想（資料6：波線部）にもあるように、授業者が説明を工夫することを再認識したためではないかと考える。そのため、2学期は、説明や指示の出し方への課題を意識した授業づくりに取り組んでいた。

子供が学ぶ価値を感じ、子供が成長している自分をメタ認知できるような単元設計、授業づくりが必要。教師がしゃべりすぎて、子供の活動を妨害している。再度勉強し、子供たちが楽しく学べる授業づくりを頑張りたい...

資料6 1学期の授業後の授業者の感想

1、2学期の授業を通して授業者は、これまでの授業づくりにおける課題に注目して、今後の方向性を感想の中で述べていることが分かる（資料7）。「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じた支援を授業にどのように取り入れていくかを考えることを通して、授業者自身がこれまでの自分の授業を見直すきっかけにつながったと考える。

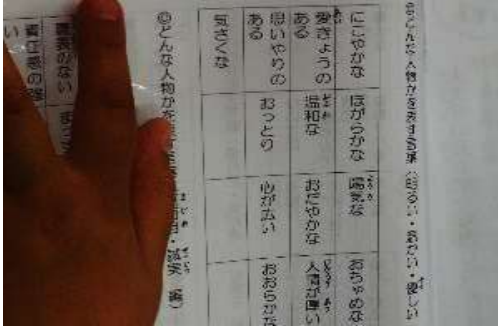
今回の研究のことで通じて、自分自身の足りない点を振り返ることができた。「個人差への配慮」の視点に応じた支援を授業の中で更に取り入れる必要があるため、自分自身の力を更に高めていく必要があると感じている。


資料7 2学期の授業後の授業者の感想


(2) 課題


○「個人差への配慮」の視点に応じた支援については、児童の実態に応じた支援を模索する必要があると感じた。学級担任が一人で行う支援だけでなく、校内の組織的な支援体制の構築について検討をしていく必要性を感じた。

◇具体的な支援と取組の様子

<p>環境の工夫</p>	<p>学習に取り組みやすくなるように、学習に関連のある言葉を集めた語彙集を各自にもたせる</p>
<p>支援の意図</p>	<p>単元の中で使うことが多い言葉を語彙集としてまとめておくことで、児童が自分の考えに合う言葉を選びやすくする。</p>
	<p>取組の様子</p> <p>学習に関連のある言葉を集めた語彙集である「言葉の資料」を手掛かりに、伝えたい内容に合う言葉を探す児童の姿が見られた。</p> <p>児童アンケートの感想には、「『言葉の資料』を使って、友達のいいところを言えたからよかった」という記述があり、児童が学習の取り組みやすさを実感していることがうかがえた。</p>

<p>組立ての工夫</p>	<p>個人やグループで考える活動を取り入れる</p>
<p>支援の意図</p>	<p>個人で書く活動やグループで話し合う活動を取り入れることで、児童が注意を持続させながら学習に取り組む。</p>
	<p>取組の様子</p> <p>登場人物の気持ちの変化を本文より見付ける活動では、個人で考えたことを基にグループで話し合うことを事前に伝えていた。そのため、児童は活動の見通しをもちながら、登場人物の気持ちの変化に合う言葉を本文より探すことができていた。また、グループでの話し合いでは、登場人物の気持ちの変化に合う言葉だけでなく、その言葉を選んだ理由を、グループ内の友達に伝え合う姿が見られた。</p> <p>児童アンケートの感想には、「みんなが考えた理由を言ってくれたから、(友達の考えに)納得できた」という記述があり、注意を持続させながら書く活動や話し合う活動に取り組んだことがうかがえた。</p>

説明の工夫	ラミネート加工したプリントに、グループでの話し合い後の考えを記入させる
支援の意図	選んだ名文ごとにラミネート加工したプリントを準備しておくことで、児童が登場人物の気持ちに合った言葉を修正しやすくなるだけでなく、発表の際に、登場人物の気持ちの変化を視覚的に捉えやすくなる。
	<p>取組の様子</p> <p>ラミネート加工したプリントの中央に選んだ名文が記載されてあるため、その前後の登場人物の気持ちに合う言葉をグループでの話し合いの中で何度も修正することができていた。また、グループで話し合ったことを学級全体に発表するときは、発表するグループのラミネート加工したプリントを日直が指し棒で指していたので、他のグループの考えを聞きながら聞く児童もいた。</p> <p>児童アンケートの感想で、今日の学習が楽しめた理由として、「前や後の気持ちを書けるボードがあったし、グループで協力して取り組めたから」と、ラミネート加工したプリントの有効性を述べた記述もあった。</p>

個人差への配慮	学習の要点のみを記入するワークシートを準備する
支援の意図	学習の流れに合わせたワークシートを準備することで、児童の書く負担を軽減する。
	<p>取組の様子</p> <p>学習課題、名文の前後の登場人物の気持ちとその理由、そして学習の振り返りのように、学習の要点のみを記入するようなワークシートを準備していたため、ほとんどの児童が自分から進んでワークシートに記入していた。</p> <p>授業参観者アンケートの感想には、「マス目のあるワークシートは重要だが、今日の授業では、マス目のあるワークシートは必要ないほど取り組んでいた」という記述があり、学習の流れに沿ったワークシートが効果的であったことがうかがえた。</p>